

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年9月30日(水)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年9月30日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【既設多核種除去設備のHIC※液位スイッチ回路の不良について】</p> <p>協力企業作業員が既設多核種除去設備 HIC遮蔽体8の交換後、HIC液位スイッチの動作確認を行なったところ、「水位高」警報水位で警報が動作しないことを確認。</p> <p>当社保全箇所にて、他のHICに使用している液位スイッチの信号を受ける継電器や液位スイッチとの入替えを行なったが、状況が変わらないことから液位スイッチと制御盤間の信号用ケーブルの導通不良と推定。</p> <p>HIC交換作業については、カメラにてHICの内部確認が可能であること、および「水位高高」警報用液位スイッチの動作に異常がないことから支障なし。</p> <p>今後、当該ケーブルを交換予定。</p> <p>※HIC:高性能容器</p>	GⅢ	9月21日
2	<p>【雑固体廃棄物焼却設備焼却炉(B)の二次燃焼器バーナ取付座からの蒸気状の気体の確認について】</p> <p>雑固体廃棄物焼却設備焼却炉(B)の二次燃焼器バーナを取付けている台座から少量の蒸気状の気体が漏れ出ていることをパトロール中の協力企業作業員が確認。</p> <p>その後、当該焼却炉(B)を停止し、蒸気状の気体の発生が止まったことを確認。</p> <p>蒸気状の気体の発生に関し、以下を確認し、建屋内、および環境への影響はないものと推定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次燃焼器バーナ取付座周りの放射能汚染密度は、スマヤ測定の結果、検出限界値未満(検出限界値: <math>1.89 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^2</math>)であること。また、空間線量は、バックグラウンドと同等(空間線量測定結果: <math>1 \mu \text{Sv/h}</math>)であること。</li> <li>・建屋内の空調設備は、フィルタを通して外気に排気していることで外部への漏れ等がないこと。</li> <li>・雑固体廃棄物焼却設備建屋排気筒ガスモニター・ダストモニター、モニタリングポスト、発電所敷地境界・構内ダストモニター、構内線量表示器の各指示値に有意な変動がない。</li> </ul> <p>今後、原因を調査後、修理予定。</p>	GⅢ	9月25日
3	<p>【6号機 原子炉隔離時冷却系ポンプ室空調機の冷却水ラインからの水の微量な漏えいについて】</p> <p>6号機 残留熱除去海水系(A)の点検に伴い、海水ラインと海水ラインから分岐する原子炉隔離時冷却系ポンプ室空調機他の冷却水ラインの水張りを行なった。</p> <p>その後、当直員によるパトロールで、原子炉隔離時冷却系ポンプ室空調機の冷却水ラインのベント配管接続部から微量な水の漏えいがあることを確認。</p> <p>漏えい箇所の配管接続部には、以前よりビニール袋による養生と排水口へ繋がるホースが設置されており、漏えいした水は排水口に導かれていることを確認。</p> <p>現在、残留熱除去海水系(A)は、点検中で非待機状態のため、機能要求はなし。また、当該空調機は休止扱いであり、影響なし。</p> <p>今後、冷却水ラインから当該空調機を隔離するため、空調機の出入口配管を切り離し、閉止板を取付け予定。</p>	GⅢ	9月25日
4	<p>【新事務本館における当社社員の負傷について】</p> <p>当社社員が新事務本館3階から2階に階段を降りる際、階段を踏み外し、左足を捻った。</p> <p>新事務本館内の健康管理室にて、医師から左足捻挫との診断を受け、治療。</p>	GⅢ	9月16日